

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 52 号:2018 年 10 月－12 月期】

- * 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2018年1～9月期のウズベキスタンのGDPは前年同期比5.2%増の244兆3,000億スムに

国民一人あたりのGDPは前年同期比3.5%増の740万スムであった。経済の全部門により創出された総付加価値はGDPの86.3%で、前年同期に比べて5.3%増加した（GDPの成長への寄与度は4.6%ポイント）。純間接税はGDPの13.7%で、4.5%増加した（GDPの成長への寄与度は0.6%ポイント）。GDPの成長への寄与度が最も大きかったのはサービス分野（2.5%ポイント）で、前年同期に比べて6%成長した。

外国資本が参加する企業の数が増加し、2018年11月1日時点で前年より1,734社多い7,155社に

外国資本が参加する企業の過半数である4,504社（62.9%）がタシケント市、799社（11.2%）がタシケント州、384社（5.4%）がサマルカンド州に所在する。事業分野別にみると、最も多いのは鉱工業で2,871社（40.1%）、商業が1,549社（21.6%）である。2018年に新たに設立された企業のうち、ロシア資本が参加する企業は357社、トルコは290社、中国は261社、カザフスタンは212社、韓国は141社であった。

2018年12月1日時点のウズベキスタンの金・外貨準備が259億8,300万ドルに

上記のうち外貨建て資産は110億1,600万ドル、金準備は149億6,700万ドルであった。2018年初時点の金・外貨準備は280億7,700万ドルで、そのうち外貨建て資産は140億4,200万ドル、金準備は140億3,400万ドルであった。金・外貨準備の原因の一つは、金の価格が1トロイオンス当たり1,296.50ドルから1,220.45ドルに下落したことである。その影響により金準備は8億2,320万ドル目減りした。

欧州復興開発銀行（EBRD）の予測によると、2018年のウズベキスタンのGDP成長率は5.0%

EBRDは2018年のGDP成長率予測を5.1%から5.0%に下方修正した。また、同行は2019年のGDP成長率が4.5%になるものと予測している。同行の以前の予測では、2019年の成長率は5.3%とされていた。同行は、2018年の成長率低下の理由として、貿易収支が

赤字に転落したことおよび物価上昇により家計消費の伸びが減速したことを挙げている。

アジア開発銀行(ADB)が2018年のウズベキスタンのGDP成長率を4.9%と予測

ADBの前の予測では、2018年の成長率は5.5%とされていた。同行は下方修正の主な理由としてスム切り下げの長引く影響を挙げている。同行の予測によると、2018年の物価上昇率は16%、2019年については14%とされている。

国際通貨基金(IMF)が2019年のウズベキスタンにおけるインフレの主な原因を予測

IMFはインフレの主な原因として、2018年11月半ばのエネルギー資源統制価格の引き上げ、公務員の給与引き上げ、間接税の引き上げ、一部の商品の輸出増加に伴う国内価格の引き上げを挙げている。IMFは、これらの要因を考慮に入れた上で、2019年末までに消費者物価指数の上昇率が17~18%になる可能性があると予測している。この予測は、2019年に政府が厳しい通貨・金融・税務・財務政策を実施することを前提としている。

貿易

2018年1~11月期のウズベキスタンの貿易赤字が60億ドル超に

貿易総額は286億ドルに達し、前年同期に比べて17.6%増加した。輸出額は113億ドル(3.2%減)、輸入額は173億ドル(36.8%増)であった。

最大の貿易相手国は中国で貿易額は56億7,700万ドル(前年同期比32.2%増)、第2位はロシア(50億9,450万ドルで17.4%増)、第3位はカザフスタン(26億1,100万ドルで38.6%増)であった。主な輸出品は、エネルギー資源・石油製品(23億ドル)、サービス(27億ドル)、金(15億ドル)であった。主な輸入品は、機械・機器(72億ドル)、化学製品(22億ドル)、サービス(20億ドル)であった。

貿易赤字の一部を補填したのは国際送金である。2018年1~9月期のウズベキスタン向け国際送金額は38億ドルであった。ウズベキスタンは、ロシア(送金受取額は29億6,000万ドル)、カザフスタン(2億4,710万ドル)、米国(1億3,810万ドル)、トルコ(1億5,490万ドル)、韓国(7,710万ドル)、イスラエル(3,940万ドル)、スウェーデン、アラブ首長国連邦などの国々との間では送金受取国となり、中国、ウクライナ、リトアニア、アゼルバイジャン、ポーランドなどの国々との間では送金支払国となった。2018年1~9月期のウズベキスタンから外国向けの送金額は6億3,900万ドルであった。

金融・投資セクター

2018年10月1日時点のウズベキスタンの対外債務が前年より6億6,430万ドル(4.2%)増加して164億ドルに

政府対外債務（政府の借入金および政府保証付きの借入金）は87億ドルに達した。民間対外債務は国営企業を含む企業による政府保証なしの対外借入金で、77億ドルであった。民間対外債務の大部分は石油ガス・エネルギー部門による借入金で、56億ドル（73%）に達した。

2018年1～9月期には政府対外債務が11億ドル増加したが、民間対外債務は4億6,620万ドル減少した。民間部門の債務返済の大部分は、石油ガス・エネルギー部門（6億4,580万ドル）、銀行部門（1億5,140万ドル）、通信部門（1億1,880万ドル）によるものであった。

2019～2021年の政府債務の上限はGDPの40%と設定されている。予測によると、2019年には政府対外債務がGDPの21.8%、2020年および2021年にはGDPの27%以下となる見込みである。

2019年の財政赤字は対GDP比1.1%となる見込み

財政赤字は、2019年初時点の国家予算の剰余金、国際金融機関からの借入金、内国債の発行およびその他のインフレを伴わない財源により補填される予定である。2019～2021年には総額3兆スム相当の債券発行が計画されている。

ウズベキスタン政府がJP Morgan、Deutsche Bank、Citiおよびガスプロムバンクにドル建て債券の新規発行を委託

政府は2019年上半期に償還期間5～10年の5億ドル相当の債券を発行する予定である。2018年末、Standard & PoorsとFitchはウズベキスタンの信用格付けを発表した。両社はウズベキスタンの格付けを「BB-」、見通しを「安定的」とした。

エネルギー・セクター

2018年1～9月期のウズベキスタンの天然ガス輸出額は20億ドル

上記のうち、第3四半期の輸出額は8億3,480万ドルであった。平均輸出価格は1,000 m³当たり約145ドルであった。

株式会社ウズエネルギーに代わり新たにエネルギー省を設置

エネルギー省の新設については、ウズベキスタン大統領決定「電力部門の加速的発展と財政的持続可能性の確保のための措置について」に記載されている。首相を委員長とする特別委員会が、然るべき文書一式を策定するよう指示されている。エネルギー

一省は国内の燃料・エネルギー・コンプレックスの機能と規制の問題を担当することになる。

ウズベキスタンとロシアがロシア企業によるウズベキスタン企業の信託管理について検討

具体的には、株式会社ウズベクウゴリの株式の45%を信託管理のためロシアの有限責任会社プログレス・ゴルテフに移転することが決定された。そのため、プログレス・ゴルテフはウズベキスタンに子会社を設立する。信託管理協定は期間を3年として締結されるが、延長の可能性もある。最近までこの株式を管理していたのはウズベキスタン・テミル・ヨラリである。

また、アングレン発電所、ヤンギ・アングレン発電所など、ウズベキスタンの複数の火力発電所を信託管理のためロシアのインテルRAO UESに移転することも検討されている。このイニシアティブは、ウズベキスタンの発電部門の近代化と発展にかかる両国のより大規模な協力パッケージの一部である。報道によると、タシケント発電所、ナヴォイ発電所、タヒアタシ発電所、アングレン発電所の合計18基のプラントの近代化と改修が計画されている。

これに先立ち、ウズベキスタン政府は、国が保有するウズフトルツヴェトメト、ウズヒムファルム、ウズベキスタン冶金コンビナート、アルマルィク採鉱精錬コンビナート、タシケント冶金工場およびドリ・ダルモンの株式を信託管理のため外国企業に移転することを決定していた。

ウズベキスタンにおける原子力発電所建設費は推計110億ドル

ウズベキスタン初の原子炉は2028年に稼働を開始する予定である。ロシアとウズベキスタンの政府間協定によると、ウズベキスタン国内にVVER-1200型原子炉2基から成る総出力2.4GWの原子力発電所が建設される計画である。この発電所の稼働開始により、天然ガス37億 m^3 が節約できる見込みである。

このプロジェクトはロシアのロスアトムと共同で実施される。現在、ジザク州のアルナサイ湖周辺で原子力発電所の建設用地を探す作業が行われている。原子力エネルギー開発庁（ウズアトム）とロスアトムは調査作業の実施に関する共同プログラムを承認した。同プログラムに従い、2019年末までに複数の建設候補地において調査作業が行われる予定である。

その他のセクター

ウズベキスタンは総容量4,500万 m^3 の7つの大規模貯水池を建設する予定

貯水池ネットワークの拡大により、新しい土地の灌漑が可能になる。貯水池は、タシケント州（「パルケントソイ」、「キジルソイ」、「トシテパ」）、ジザク州フォ

リシ地区（「カラマン」）、カシカダリヤ州（「グルダラ」、「アヤクチソイ」）、サマルカンド州（「ブルングル」）に建設される予定である。

ウズベキスタン政府が国営企業改革の基本的な方針と手順を決定

最初に改革が行われるのはエネルギー部門の企業で、その後は運輸部門、具体的には国営航空会社で改革が行われる。国営企業改革は、国際金融機関との協力により策定された構造改革プログラムの一部である。たとえば、ウズベキスタン国営航空をベースに株式会社Uzbekistan Airwaysと株式会社Uzbekistan Airportsが設立される。また、新たに運輸省が設置される予定である。ウズベキスタン航空傘下の国営企業は有限責任会社に改組される。航空機の保守や修理に携わるUzbekistan Airways Technicsも改組の対象となる。ウズアエロナヴィガツィヤ・センターは内閣の管轄下に移る。特別航空作業会社は有限責任会社Uzbekistan Helicoptersに改組される。

ウズベキスタン中央銀行幹部が銀行セクターへの政府の関与を縮小する意向を発表

2017～2018年、各銀行の資本が不十分であるため、政府は各銀行の定款資本に総額約10億ドルを投入した。これは、各銀行の定款資本における政府の出資比率引き上げにより実施された。中央銀行の担当者によると、政府は銀行セクターへの関与をすぐにやめるつもりはないが、その一方で、外国資本の誘致を含む民間資本の出資を拡大するための条件が整備される。いくつかの国営銀行を統合し、新たに開発銀行（輸出入銀行）を設立する案も検討されている。